

ラベンダー

中村祥二 (会長)

ラベンダーは、地中海沿岸原産の植物で、フランスやイタリアの海に近い山岳地帯で栽培されている。ヨーロッパでは、昔から男性用の香りの代表であったが、私が初めて欧米にいった数十年前の日本ではあまり評価されていなかった。この初めての海外旅行の数々の思い出の中でとりわけ新鮮に残っている印象の一つが、南仏のラベンダーの紫に霞む空気と、かぐわしい香りに満ちて、目の前に広がった広大なラベンダー畑だった。

8月、バカンスを楽しむ人々で賑わうカンヌの浜辺を横目に見ながら西へ進み、ツーロンの北を抜けてララーニュ付近の栽培地に向かった。途中、タイムやベルベナが自生していると教えられた辺りは、車窓の風がかすかに匂う。山あいの道を幾つかぬけると、風はすでにラベンダーの香りを含んでいた。

視界が開けると広大なラベンダーの畑は、山の中腹から下って丘を越え起伏の豊かなうねりを見せていた。それは紫の毛氈を敷き詰めたようで、滑らかなベルヴェットの感触を思わせるものであった。花茎の上に集まって咲く米粒ほどの小さな花には、爽やかで軽いエステル様の香りと甘いかすかな粉っぽさを感じられ、ドライブに疲れた気持ちを和らげてくれた。

私の家には南仏からのものと北海道富良野のもの2種類がある。冬の寒い間は、オリーブの葉裏に似た銀白色の葉は、春になると鮮やかな緑色に変わる。日当たりと水はけが良いせいか6月の半ばになると沢山の花をつける。その香りをかぐと、長い歳月を越えてプロバンスの馥郁たる香りに包まれて立ち尽くした日のことをおもいだす。花の盛りに花茎の下を切って乾燥させておくと、紫のイメージの爽やかな香りのポプリを一年間楽しむことができる。一年後の夏のはじめに、新しいポプリをつくらうと思う。知り合いの人達もこのポプリを楽しみにしているようだ。



ラベンダー *Lavandula officinalis*

学名の *Lavandula officinalis* からも知られるように、この香りには中枢神経の鎮静作用がありイギリスでは婦人の気付け薬として用いられてきたといわれる。私もこの香料の効果を試したいと思い、いつも身の回りにおいているが、最近の女性はなかなか気を失うことがなく、効き目を実証できないのが残念である。ラベンダーが鎮静作用をもつことは民間薬の中に記述されている。古代ローマ人は葉や花を浴槽に入れて用いていた。Lavandula という名前はラテン語の洗うという意味の lavare からきている。

ラベンダーの花の香料といっても紫の花からだけでなく、花と葉を一緒に刈り取ってとる。葉を摘んで指先で揉んでみると、さわやかですがすがしい香りがして気持ちがよい。

この男性用の代表的な香りはラベンダー・フゼアタイプ的主要な要素になっている。ハーブ、スパイスや木の香りなどとブレンドして用いられ、高級なコロンの香りをつくりあげる。